

# 扉を開けるピンソン (1)

## Tituli paginam Pynson aperit (1)

---

高野 彰

Akira TAKANO

### Summa

Quomodo tituli paginam exhibebat Pynson? Exhibet tituli paginam cum solum litteras, cum pictura out saeptam ab ornatione. Cum Tituli paginam complet, facit id “commenticie”, non “vere” qui de Worde facit id. “Complere paginam commenticie” est facillimus modus complere tituli paginam. Id Pynson introducet et eum imitabatur de Worde. Gravissimus vir typographorum Pynson in Anglia super historiam tituli paginae est.

Duo magni typographi, de Worde et Pynson complent tituli paginam, “complere tituli paginam” principium sim communis principium omnis typographis in primo saeculi XVI.

### 1. 序

ド・ウォードは「ページいっばいの表示」原則に従って扉を表示した<sup>(1)</sup>。この原則は本文ページに対しては受け入れるとしても、扉に対してはかなり特殊に見える。これは彼独自の原則であろうか。あるいは当時のイギリスの印刷者に共有するものだったのであろうか。彼とほぼ同時代の印刷者にリチャード・ピンソン (Richard Pynson) がいる。ド・ウォードとピンソンはイギリスの創始印刷者ウィリアム・キャクストン (William Caxton) の二大後継者であり<sup>(2)</sup>、当時を担った二大印刷者である。この二人の動きが分かれば、当時の扉表示に関する傾向が把握できると思われるので、ピンソンの様子を見てみよう。

ピンソンはノルマン人で、パリ大学に籍を置いた時期もあった<sup>(3)</sup>。彼の本で日付の入った最初の本はアレキサンダー・グランマティクス (Alexander Grammaticus) の『文法理論』 (Doctrinale) であり、ここには 1492 年 11 月 13 日に作業の完了したことが記されている。そして 1528 年 6 月 28 日以降に本を出した様子はない<sup>(4)</sup>。彼の活躍期間はド・ウォードのそれとほぼ重なる事が分かる。

彼の用いた扉表示は表 1-1 に示した。この表の読み方はド・ウォードの場合と同じなので、記載内容の説明はそちらを参照していただきたい<sup>(5)</sup>。そして引用する扉等の絵はいずれも UMI 社のマイクロフィルムに基本的には依拠し、部分的にはそのデータベース版ともいえる EEBO (Chadwyck-Healey 社) に依っている<sup>(6)</sup>。

## 2. 扉の「絵付き形」と「文字書名形」表示

表 1-1 を見ると、ピンソンが印刷物を出したのは 1490 年のことであるが、扉を採用したのはそれから 4 年後の 1494 年になる。この時、彼は書名を 3 行で表示し、下部には絵 (印刷者マーク) を配した「絵付き形」(図 2-1) にしている。しかし図 2-2 (stc. 11601) のような、文字だけで示す「文字書名形」を見かけるのは、さらに 2 年後の 1496 年 (2 点) になる。ピンソンはド・ウォードより早く出版物を出すが、扉の採用は遅かった。

ピンソンの扉を表示形ごとに年度別一覧にしたのが表 2-1 である。表を見ると、絵付き形はどの年もほぼ安定して使用されている。しかし文字書名形は使い方が散漫である。両形の使われ方は 1500 年までだと、絵付き形が 14 件、文字書名形が 4 件なので、3 対 1 の割合である。ところが 1501 ~ 1519 年間になると、絵付きが 65 件であるのに対して、文字書名形は 11 件となり、6 対 1 に変化する。

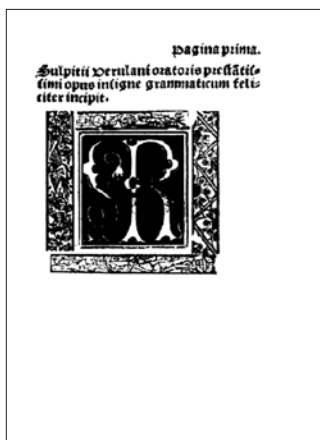


図 2-1 (stc. 23425, 1494 年)

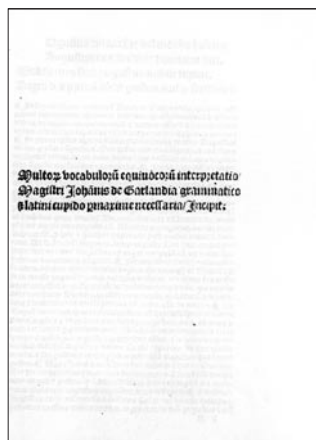


図 2-2 (stc. 11601, 1496 年)

しかも表 2-2 から分かるように、1503 年までに使用された文字書名形 (5 件) の内、後続版のない 1 件 (stc. 3297, 1500 年) を除くと、残りの 4 件はいずれも次に出版されると絵付き形に表示変更していた。両表示形の使用件数の変化といい、文字書名形から絵付き形への移行といい、

絵付き形の積極的な使用が読み取れる。ピンソンはなぜ扉を絵付き形で表示しようとしたのであろうか。

表 2-1：扉表示形の件数

| 年号   | 1494 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 1500 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
|------|------|----|----|----|----|----|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 絵付き形 | 1    |    | 1  | 3  | 4  | 2  | 3    | 1 | 3 | 4 | 2 | 7 | 3 |   | 5 | 4 | 5  | 3  | 4  | 4  | 2  | 5  | 5  | 2  | 6  |    | 4  | 3  | 2  | 3  |    | 7  | 8  | 2  | 5  |
| 囲み飾り |      |    |    | 1  |    |    |      |   |   |   |   |   | 1 |   | 1 |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 1  | 4  | 5  | 8  | 11 | 4  | 5  | 3  | 3  | 4  |
| 文字書名 |      |    | 2  |    | 1  |    | 1    |   |   | 1 | 1 |   |   |   | 1 | 2 | 3  |    |    |    | 3  |    |    |    |    |    | 2  | 4  | 1  | 1  |    | 1  |    |    |    |

表 2-2：文字書名形の絵付き形への変化

|      | 文字表示形         |   | 絵付き形            |
|------|---------------|---|-----------------|
| Stc. | 11601 (1496年) | → | 11604 (1503年)   |
|      | 11609 (1496年) | → | 11612 (1502年)   |
|      | 12470 (1498年) | → | 12472 (1500年)   |
|      | 17728 (1503年) | → | 17728.5 (1508年) |

### 3. 文字書名形の使用中止

表 1-1 によると、文字書名形は 1500 年までに 4 件、その後 1503 年、1504 年そして 1508 年に各 1 件と細々とした使われ方である。しかも 1498 年から 1503 年までの書名はいずれも図 3-1 のような 1 行書名ばかりである。

表 3-1：絵付き形の書名の行数

| 年  | 1501 | 1502 | 1503 | 1504 | 1505 | 1506 | 1508 | 1509 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 行数 | 1    | 2    | 2    | 10   | 2    | 1    | 3    | 2    |
|    |      | 2    | 3    | 10   | 2    | 2    | 1    | 1    |
|    |      | 1    | 1    |      | 5    |      | 1    | 1    |
|    |      |      | 1    |      | 3    |      | 6    | 4    |
|    |      |      |      |      |      | 1    |      |      |

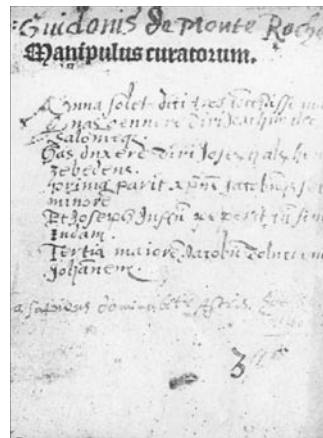


図 3-1 (stc. 12470, 1498 年)

それに表3-1によると、1501年からの絵付き形は、毎年、複数件使用されているが、絵付き形の書名の行数は1504年を除くと、多くは1～2行書名である。絵付き形でも書名の行数が少ないことが分かる。文字書名形の減少は書名の行数が少なかったためと推定できる。なお、1513年の3行書名（図5-5）については第5項で扱っている。

#### 4. 扉ページの表示スペース

何故書名の行数が少ないといけないのであろうか。文字書名形からでは表示スペースを把握しにくいので、絵付き形でその点を確認してみよう。ピンソンは絵（木版）を使う場合、下記の3形を用いている。

1. 絵+文字（図4-1）
2. 文字+絵（図2-1）
3. 絵（図4-3）

図4-1を見ると、文字は一定の横幅で表示されている。この状態は図2-1や図2-2を見ても分かる。他方、縦の長さとは、横幅ほど明確ではないが、それでも図4-1や図4-4の場合、絵と文章を合わせた長さであることがわかる。この縦横の長さは何をよりどころにしているのであろうか。図4-1は扉ページであり、その本文ページが図4-2であるが、この両図の表示部分が一致していることが分かる。扉ページも本文ページと同じ長さで幅で「版面」を作ろうとしていたのである。いわゆる「ページいっぱいの表示」である。とすれば図2-2が表示条件を満たしていないことは明らかである。

その点、絵を使えば簡便に「ページいっぱいの表示」が可能であり、図4-4の絵（木版）はその目的を十分に達成している。しかし絵（木版）がいつも「ページいっぱいの表示」をしているとはかぎらない。図4-1は絵の左右に空きがある。図2-1では横だけでなく、下部にはさらに大きな余白がある。図4-3ともなると横だけでなく、上下にも余白が目立つ。文字だと縦横幅いっぱいの表示が求められているのに対して、絵にそれが求められないのはどうしたことであろうか。

図4-3には文字を全く見かけないし、絵の周りは余白だらけである。しかしこの余白は文字だけのページに見かける余白に比べると、空いていると感じる度合いが少ない。絵には「余韻」という周囲の余白を埋める「仮想」の「ページいっぱい」感が備わっていると見なしたのではないだろうか。

といて絵を使えばどんな表示形でも余白が自動的に埋まるわけではない。絵付き形とは書名と絵を併用する形であるが、絵の位置によって下記のように区分できる。

- (1) 「絵+書名」形——図4-1、図4-4（9点）<sup>(7)</sup>
- (2) 「書名+絵」形——図2-1（105点）

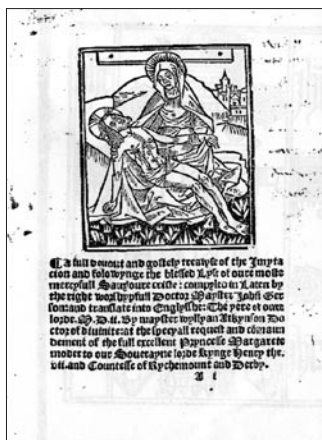


図 4-1 (stc. 23955, 1504 年)

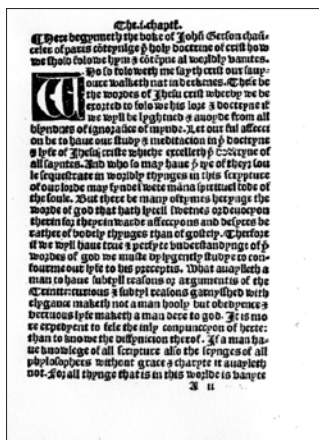


図 4-2 (stc. 23955 の aii)

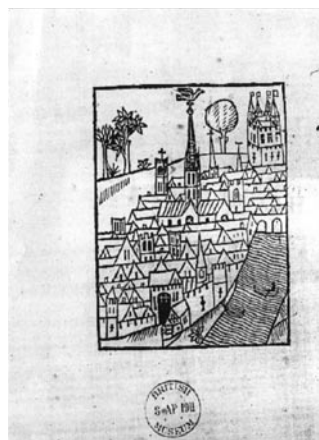


図 4-3 (stc. 12380, 1505 年)



図 4-4 (stc. 277, 1498 年)

(1) 形の図 4-1 は書名が 10 行もあることから、余白が小さく、絵も小ぶりである。他方、図 4-4 は書名の行数が少ないこともあって、大きな余白を埋めるために大きな絵が配置されている。(1) 形の場合、絵が先に来ているが、組み版作業では絵を先に配置するわけではない。まず活字の部分で「最終行」に配置し、次いで残った上部の余白に合わせて絵を勘案するので、絵の大きさを常に気にしなければならない。

それに対して (2) 形では、図 2-1 から分かるように、3 行書名のため下部に大きな余白が残ったままである。しかし (2) 形 (「書名+絵」の順) だと、絵の下部の余白は絵の「余韻」とみなせるので、絵の大きさを気にする必要がない。

おかげで表 4-1 に示したように、(2) 形は絵付き形 (総件数 114 件) の 9 割を占め、「絵付き

形」の標準に近い使われ方をしている。使い勝手の良さが(2)形の多用につながったことは明らかである。

表 4-1: 「絵付き形」の絵の位置別件数

|      | 1494 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 1500 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 計   |
|------|------|----|----|----|----|----|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 絵付き形 | 1    |    | 1  | 3  | 4  | 2  | 3    | 1 | 3 | 4 | 2 | 8 | 3 |   | 5 | 4 | 5  | 3  | 4  | 4  | 2  | 5  | 5  | 2  | 6  |    | 4  | 3  | 2  | 3  |    | 7  | 8  | 2  | 5  | 114 |
| 書名+絵 | 1    |    |    | 2  | 3  | 2  | 3    | 1 | 2 | 4 |   | 8 | 3 |   | 5 | 4 | 4  | 3  | 4  | 4  | 2  | 5  | 5  |    | 6  |    | 4  | 3  | 2  | 3  |    | 7  | 8  | 2  | 5  | 105 |
| 絵+書名 |      |    | 1  | 1  | 1  |    |      |   | 1 | 2 |   |   |   |   |   |   |    | 1  |    |    |    |    |    | 2  |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 9   |

それに絵(木版)は、本稿(2)で述べるように、別の本にも繰り返し使われているので、「絵+書名」順では本を即座には識別し難い。この点も(2)形(「書名+絵」順)を多用する理由になる。

しかし絵が簡便に使用できるとしても、絵の併用が面倒な作業であることに変わりはない。文字書名だけで済ますことができれば、扉表示はずっと簡便になる。それが出来ないのは扉を「ページいっぱいに表示」という原則が存在し、文字だけではその原則を充足できなかったからである。

「ページいっぱいに表示」という考え方は本文ページの表示原則である。それにもかかわらずこれを扉ページに適用するのは何故だろうか。ピンソンは図2-1で扉の上部右隅に「Pagina prima」(第1ページ)と表示し、扉ページを本の第1ページとして扱っている。これ迄であれば巻頭は本文から始まる。ところがこのページに扉ページを配置し、且つ第1ページと表示している。ピンソンはこのページを本文ページの始まりと見なしている証拠である。このページとは最初の折丁の第一ページであり、本来であれば本文の始まるページであるが、本文を後ろに下げて設けたページである(この点については本稿(2)で扱う)。となればこのページは本文ページである。それに刊本は当初、扉を備えていなかったもので、新しい工夫(扉)を採用しても、その役割と表示方法は不明である。このページ(扉)を表示するにしても手本は本文ページしかない。扉が「ページいっぱいに表示」という本文ページの表示原則に従うのはこうした訳だったのである。

## 5. 書名の文字「図柄表示」

16世紀にはいると、文字書名形では「ページいっぱいに表示」原則を守ることができないために、ピンソンが扉表示の基軸を絵付き形に移行し出すことは前述した通りである。しかし1504年になると文字書名形でありながら、22行の書名(図5-1; stc. 16179)が出現した。この行数が確保できたのは書名を逆台形で表示したからである。おかげで扉ページのかんりの部分を埋めることができた。



図 5-1 (stc. 16179, 1504 年)

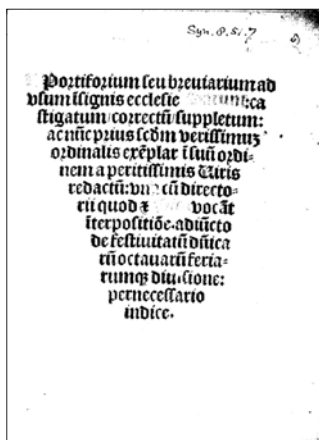


図 5-2 (stc. 15807, 1508 年)



図 5-3 (stc. 13830, 1509 年)

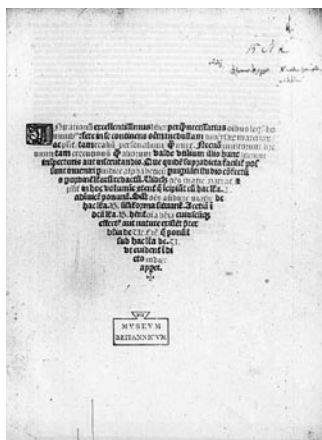


図 5-4 (stc. 14116, 1510 年)

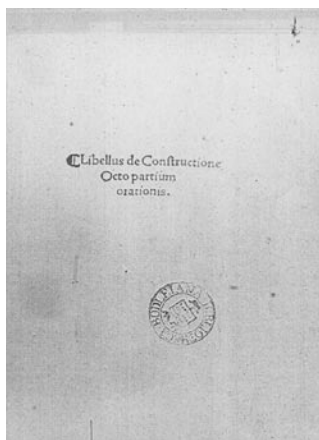


図 5-5 (stc. 15601.3, 1513 年)

次の文字書名形は 1508 年 (図 5-2) と、少し間隔が空くことから、ピンソンは 1504 年の図柄表示の意味を把握していたとは思えない。ところが 1508 年になると同じ逆台形を使いながら 14 行表示で 1504 年形より扉を埋め尽くす割合を増やすと、1509 年 (図 5-3) にはウィングラスの図柄表示をして縦行全部埋め尽くした。あとは横幅を埋め尽くせば、「ページいっぱいの表示」は完成するので、その方向に進むように見えた。ところが 1510 年になると、それとは逆に、3 件の文字書名は 14 行 (2 件) と 18 行 (1 件) (図 5-4) そして 1513 年ともなると 3 行 (図 5-5) に激減する。

この方向転換はなにを意味するのであろうか。1504 年 (図 5-1) に文字書名形が使われたとき、この図は逆台形、即ち、文字を使った図柄表示をしていた。文字を使っていても木版を使ってい

でも、表示されたものが図柄であれば、絵であることに変わりはない。絵であれば左右や上下に空きがあってもそれらは「余韻」と見なせる。彼はこの事に1508年頃気付き、1509年には完全に理解すると、その結果を1510年さらには1513年に提示したのである。実質的に埋めなくても「ページいっぱいの表示」は可能であり、わずか3行でも実行できることを例示したのである。書名が行数増から行数減へと変化した陰にはこうした事情が隠されていたのである。

書名の図柄表示は文字書名形に限ったことではなかった。表1-1からわかるように、1520年頃からは表示形のいかに関わらず書名等が図柄表示されるようになる。図柄表示はピンソンにとって扉を容易に「ページいっぱいに表示」できる万能の表示手段になったといえる。

## 6. 「囲み飾り形」

次に用いられたのが囲み飾り形である。ピンソンはこの表示形を1519年から使い始めるが、突然そうしたわけではなかった。既に1497年、1506年、1508年に各1回ずつ試行している。この3点の囲み飾りには、図6-1からわかるように、「縁枠」という寄せ集めの図柄が使われた。

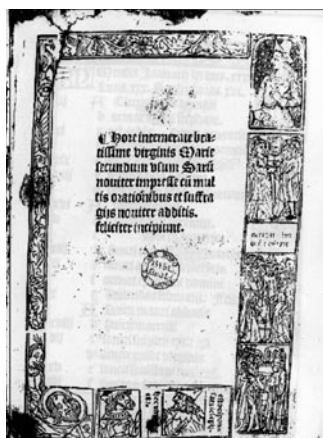


図6-1 (stc. 15886, 1497年)



図6-2 (stc. 13811, 1519年)

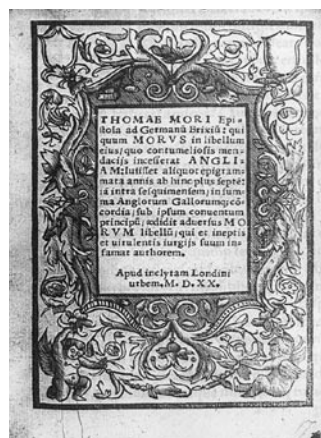


図6-3 (stc. 18088, 1520年)

1519年になると、図6-2に示したように、彼は再び囲み飾りを使い出すと共に囲みを「縁枠」から、「コンパートメント」に変える。変更はこれだけに留まらなかった。書名等を表示する活字書体も使い分け出すからである。絵付き形はこれまでゴシック体やローマン体で表示されてきたが、この年を境にして、ゴシック体が専用書体となる。そしてローマン体は囲み飾り用の基本書体として使い分けられるようになる。ローマン体は彼が1509年 (stc. 12413) にイギリスで初めて使用した書体であり<sup>(8)</sup>、これを主に囲み飾り専用にすることで、扉表示を新しい形で示そうと



した意図がうかがえる。

囲み飾りの中はどのように表示されたのだろうか。当初、囲み内は、図 6-1 のように、書名を改行するだけで、余白の目立つ表示になっている。しかし 1519 年になると、図 6-2 のように、書名などを図柄表示して、「ページいっぱいに表示」し始める。

あるいは図 6-3 だと、図柄表示をしていなくても、書名と内容説明文を連ねて幅いっぱいの表示をし、残った余白には印刷事項を図柄表示することで、囲み飾り内でも「ページいっぱいの表示」をしている。

ピンソンが絵付き形、文字書名形さらには囲み飾り形と、どの表示形でも扉を「ページいっぱいに表示」しようとしたことは明らかである。

## 7. 「実質」と「仮想」の「ページいっぱいの表示」

表 7-1 はピンソンとド・ウォードが扉表示形とそれに関連した工夫をいつ採用したかを示している。表によると、ド・ウォードは 1493 年に最初の扉を文字書名形で示した。しかしピンソンは 1496 年と遅れ、しかも書名の末尾を「incipit」（ここから始まる）で終わらせている（図 2-2）。

絵付き形は両者とも 1494 年に用いているが、ピンソンはやはり書名の最後を「incipit」で終えている（図 2-1）。そして 1497 年になると囲み飾り形を初めて使用するが、ここでも書名の最後は「incipiunt」で終わっていた<sup>(9)</sup>。彼は三表示形（文字書名形、絵付き形、囲み飾り形）を使い始めると、どの表示形も書名の最後を「incipit」で締めくくったのである。これまで巻頭は本文から始まっていたが、そこに扉という新しい工夫を採用し、書名を表示した。しかし書名は本文と違って表示量が少ないために、本が始まったことを判別しにくい。そこで「incipit」（始まる）と表示することで、本の始まりを言葉（incipit）で示そうとしたのではないだろうか。この「incipit」は扉表示の不安を代弁した言葉といえる。

この不安感は文字書名形を採用する時にも表れていた。ピンソンは文字書名形を絵付き形より遅れた 1496 年から使い出す。文字書名形では「ページいっぱいの表示」が不可能なことから、この表示形の採用が遅れたのではないだろうか。彼は扉を採用した 1494 年から「ページいっぱいの表示」を意識し、書名の短さを気にしていたようにみえる。

16 世紀にはいると、ド・ウォードは絵付き形を積極的に使用し、下記の形で表示する。

絵 + (書名、木版書名) + 埋め草 (飾り帯、印刷事項、目次、詩の併用)<sup>(10)</sup>

この形だと、「絵」を使ってもページ全体を埋めきれない場合は残された余白を他の埋め草で「実質的」に埋めようとしていることが分かる。この方針は文字書名形を復活させた時にも変わらなかった。書名に目次や詩を追加して、実質的に埋めようとするからである。囲み飾り形でも囲み内は文字を図柄表示するが、残った余白の埋め草にはやはり詩、内容説明、小図柄が使われて

いる。彼の表示形の特徴は埋め草を追加表示をして「実質的」な「ページいっぱいの表示」に努めたことであり、書名の単独表示は少なかった。彼は、扉も本文ページと同じ折丁内にあるので、実質的に埋めるという本文ページの表示原則に忠実に従うべきだと考えて実行したのである。

表 7-1：扉表示の採用年

|                | ド・ウォード | ピンソン                 |
|----------------|--------|----------------------|
| 出版             | 1492年  | 1490年                |
| 文字書名形          | 1493年  | 1496年 (incipit 付き)   |
| 絵付き形           | 1494年  | 1494年 (incipit 付き)   |
| 印刷者マーク         | 1502年  | 1494年                |
| 扉の図柄表示         | 1521年  | 1497年 (incipiunt 付き) |
| 囲み飾り形          | 1520年  | 1497年                |
| 文字書名形の復活       | 1517年  | 1504年                |
| 印刷事項 (imprint) | 1509年  | 1509年                |
| ローマン体          | 1521年  | 1519年                |

それに対してピンソンも同様に「ページいっぱいの表示」を目指す、ページの埋め方はド・ウォードと考えを異にしている。彼も絵付き形を用いるが、絵の「余韻」を十分に活用し、「仮想」の埋め方で済ませているからである。文字表示をしても「実質的」に埋めることにこだわらず、図柄表示をすれば十分と考えた。この点はド・ウォードが併用したような飾り帯、印刷事項と言った埋め草を用いていないことから明らかである。連句や目次といった埋め草を用いていても、ド・ウォードと比べると、ピンソンの用いた件数は少ない。書名とは短いものだと開き直り、書名を図柄表示することで十分と思い、長くしようと苦心していないことがわかる。

ピンソンは1519年になると表示スペースを小さくできる囲み飾り形という新工夫を採り入れると共に、書名等をローマン体で示すという展開を見せる。彼はこの形でも「仮想」表示で十分と考えて「ページいっぱいの表示」をしていたことがわかる。

ピンソンが扉の採用に当たって見せた第一歩は遅かった。しかし一度扉を採用すると、扉を「ページいっぱいに表示」するための動きは柔軟であった。扉表示の発想を変える「仮想」表示とは「ページいっぱいの表示」という原則を遵守しながら、最も簡便で且つ、多彩な表示の可能性を秘めた重要な表示形であるが、彼はこれを1504年(図5-1)に提示すると、1513年にはその考え方を完成させた。他方、ド・ウォードは1509年に図柄表示 (stc. 23941) をするが、その後は1521年にならないとこの形を見かけないし、絵付き形の書名表示に積極的に採用していない。彼はこの表示形を重要視していないことがわかる。ピンソンがイギリスの扉史上で果たした役割は大きい。

ド・ウォードとピンソンは当時の2大印刷者である。彼らが扉を埋めるために努力を重ねたこ

とは前述した通りであるが、それは取りも直さず扉に対する「ページいっぱいの表示」原則が存在した証である。この原則はイギリスの初期印刷者に共通する一般原則であったと位置付けることができる。

本稿は「平成 22 年度跡見学園女子大学特別研究助成費」による成果である。

注

- (1) 高野 彰 「白への恐怖、黒へのあこがれ——ウィンキン・ド・ウォードの標題紙—— (1)-(4) 『跡見学園女子大学文学部紀要』第41号 (2008年) (pp.55-76)、42 (2) (2009年) (pp.13-36)、43 (2009年) (pp.7-23)、44 (2010年) (pp.43-61)
- (2) Moran, James. *Wynkyn de Worde; father of Fleet Street*. 2nd (rev.) ed. London, Wynkyn de Worde Society, 1976. p.16.
- (3) Duff, E. Gordon. *A Century of the English book trade*. London, The Bibliographical Society, 1948. p.126.
- (4) *ibid.* p.127.
- (5) 高野 彰 「白への恐怖、黒へのあこがれ——ウィンキン・ド・ウォードの標題紙—— (1) 『跡見学園女子大学文学部紀要』第41号 (2008年) pp.56-7.
- (6) EEBO とは Early English Books Online (Chadwyck-Healey 社) という 1475 ~ 1700 年に英語で出版された書籍や、英国で出版された書籍の初期英語書籍集成データベースである。
- (7) 「絵 + 書名」形の 10 点は次の通りである。  
stc. 14477 (1496年)、280 (1497年)、277 (1498年)、11612 (1502年)、23954 (1503年)、23954.7 (1504年)、23955 (1504年)、10905 (1510年)、23957、23958 (1517年)
- (8) Plomer, Henry R. *Wynkyn de Worde & his contemporaries from the death of Caxton to 1535*. London, Grafton, 1925. p.138.
- (9) 「incipiunt」はラテン語の「incipio」の三人称複数形である。
- (10) ド・ウォードは印刷事項を 1509 年 4 月 (stc. 23941) と 7 月 (stc. 16121) に表示しているが、書名と切り離して表示していないため、印刷者を宣伝する目的で表示していない。それに対してピンソンは同じ年の 9 月に、図 5-2 に示したように、書名から切り離し、一目で印刷者が分かる表示形にしている。まさに印刷事項である。

表 1-1 : Pynson

|   | 1480                  | 1481                  | 1482          | 1483                                      | 1484                           | 1485           | 1486                                         | 1487                            | 1488                                                                    | 1489                                            | 1490                                         | 1500                           | 1501                                                                                                        | 1502                                | 1503                                          |
|---|-----------------------|-----------------------|---------------|-------------------------------------------|--------------------------------|----------------|----------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 書 |                       |                       |               |                                           | 23x25 E                        | 3incut         | E14477                                       | 5360<br>P 15774E<br>P 2324E3E   | E P 977<br>P 7566 E<br>19572 E<br>23426 E                               | 4<br>2<br>2<br>3                                | 15375 E                                      | 2 P4814 E<br>7017 E<br>12471 E | 1 P155755 E                                                                                                 | P 66 E<br>E 11612<br>P1611685       | 2 P140<br>2 11604E<br>1 P33243 E<br>1 23940 E |
| 書 |                       |                       |               |                                           |                                |                |                                              | P 19886G                        |                                                                         |                                                 |                                              |                                |                                                                                                             |                                     |                                               |
| 文 |                       |                       |               |                                           |                                |                | Et 11601<br>11609                            | 3 incut<br>T6                   | 12470                                                                   | 1                                               |                                              | P 3297                         | 1                                                                                                           |                                     | P 17728                                       |
| 書 |                       |                       |               |                                           |                                |                |                                              |                                 |                                                                         |                                                 |                                              |                                |                                                                                                             |                                     |                                               |
| 文 | 15721*                |                       | 316*<br>5084* | 19212                                     | P 13808*<br>P 20321*           | 790*<br>19812  | 15722<br>23177<br>23878                      | 15852<br>17724                  | 17725                                                                   | 494.8<br>17105<br>17106<br>P 19328*<br>P 20434* |                                              | 16173<br>18386                 | 7705.7                                                                                                      | P 15573*<br>15722.5                 |                                               |
| 書 | 9770<br>9825<br>23238 | 7014<br>9332<br>12477 |               | 15851<br>17010<br>17335<br>17960<br>19212 | 3175<br>3262<br>15385<br>18385 | 15850<br>15882 | 9355<br>9784<br>9790<br>9796<br>9836<br>9812 | 176<br>16112<br>231638<br>23885 | 317<br>14077c:134<br>14077c:135<br>14077c:136<br>1586<br>16113<br>20415 | 326<br>327<br>329<br>9514<br>9515<br>14077c:142 | 177<br>9265<br>9603<br>9650<br>9601<br>16111 | P 494.9<br>17727<br>24267      | 772<br>9603<br>9784.4<br>9790.4<br>9796.5<br>9806.4<br>9812.5<br>9819.5<br>15573<br>15725<br>17969<br>20139 | 1988<br>14079<br>17033.3<br>24301.5 |                                               |
| 書 |                       |                       |               |                                           |                                |                | 9819<br>16111<br>17246<br>25501              |                                 |                                                                         |                                                 |                                              |                                |                                                                                                             |                                     |                                               |

大 : 1行目文字 d: divided G: Gothic R: Roman nondivided rec: 漢字形



